

くらがね通信

No.99 (秋号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

2025年10月1日発行

<http://iidalaw.net/norikura.html>

水生昆虫調査行いました

松崎茂

7月20日(日)、暑い一日となる予感がある晴れた朝、清見町にあるウッドフォーラム裏の川上川で水生昆虫の調査を行いました。参加者は子どもたちを含め総勢25名でした。川の水量は多すぎず少なすぎず、調査にはちょうど良い状態でした。

今年も飛騨高山高校の鈴木啓久先生にご指導頂きました。今回の調査で新兵器だったのが、鈴木先生が作ってきて下さったト

ビケラ、カワゲラ、カゲロウなどの写真入りカード。このカードのおかげで、採集後の種の同定作業がとてもスムーズにおこなえました。図鑑を開いてあちこち探しまわる手間が省けます。まずは、同じ様な形の水生昆虫ごとに用意したバットの中に分けていきます。その後、水生昆虫とカードの写真とを見比べていけば、子ども達でもなんとか何の仲間かが分かります。



「清流の歌姫」見つけたよ

清見・川上川 親子らが生物調査



網で水生昆虫をすくおうとする子どもら 高山市清見町で

地元の川にどのような生物がいるかを調べる観察会が20日、高山市清見町の川上川であった。希少生物の保護などをする「乗鞍岳と飛驒の自然を考える会」が毎年企画していて、親子ら約20人が水辺に潜む昆虫などの影を追った。

構えるなどして体長数センチの小さな獲物を狙った。マダラカゲロウの一種といったきれいな水のある場所に生息する昆虫などを15種ほどを捕まえた。

特徴的な鳴き声を持つことから清流の歌姫と呼ばれるカジカガエルも見つけ、同市清見小学校2年生の神田伊織さん(8)は「通学路にいないカエルを見られてうれしかった」と目を輝かせた。

当日は、中日新聞の記者が取材に来て下さり、後日調査の様子が記事となりました。

この記事の中にもあるようにカジカガエル(河鹿蛙)も捕まえてカエルの姿を実際に見ることもできました。又、水中の石の表面に産みつけられた卵も観察できました。このカエルは、毎年この場所でとてもステキな鳴き声を聞かせてくれています。

鳴き声は You Tube などで検索すれば聞くことができます。

高山近辺の河川ではよく聞く声ですが、近年河川工事で岸辺がコンクリートで固められ、流れが真っすぐな所ではオタマジャクシの居場所がなくなり残念ながら姿を消してしまっている所もあります。



川上川水生昆虫調査結果（採取された水生昆虫など）
（清見町ウッドフォーラム裏・7月20日）

※トンボ目

サナエトンボの仲間
コオニヤンマ
ハグロトンボ

※トビケラ目

ヒゲナガカワトビケラ
ムナグロナガレトビケラ
シマトビケラの仲間
トビイロトビケラ

※カゲロウ目

エルモンヒラタカゲロウ
ヒラタカゲロウの仲間
マダラカゲロウ
タニガワカゲロウ
ウエノヒラタカゲロウ
ヨシノマダラカゲロウ

※その他

ヘビトンボ
ブユの仲間
カジカガエルとその卵
アジメドジョウ
ウグイの稚魚
ヨシノボリの仲間
オタマジャクシ
（種は不明）

※カワゲラ目

オオヤマカワゲラ



コオニヤンマ



ヨシノマダラカゲロウ



ヒゲナガカワトビケラ



オオヤマカワゲラ



ヘビトンボ

アサギマダラのマーキング会

9月7日（日）参加者31人

神田剛志

9月7日、夏の終わりを感ぜさせる気持ちの良い日曜日。アサギマダラのマーキング会に参加させていただきました。

集合場所の道の駅で美味しいとうもろこしに舌鼓を打ったのち、チャオ御嶽スキー場へと向かいました。

カブトムシやクワガタムシを追いかけていた子供の頃から、図鑑で見たアサギマダラは私の心を掴んだままに遠く幻想の空を羽ばたいています。数年前、とある山中で遠くゆらゆらと飛ぶ姿を一度見たきりでし

たが、今日まさに再びその姿が見られるのかと大変興奮しました。

途中、マーキングについての説明を受け





たのち調査場所へ。

背の高い花畑の上を、ひらひらという言葉はこの蝶のためにあるのではないかと感じさせるほどの優雅さで、アサギマダラ達は私の中のいつか見た幻想のままに飛び回っています。大変感動する出会いでした。

結果はオスの個体を2頭、メスの個体を1頭捕獲し、マーキングを施すことができました。繊細な蝶にダメージを与えないように文字を記すことは、繊細で定評のある私の手を持ってしても緊張感のある作業でした。美しい翅に文字を記すのは若干心苦しくもありましたが、旅する蝶の神秘を研究する一助になればとの思いです。

美しく、優雅に、力強く旅をするこの蝶の魅力に再び引き込まれると同時に、このような機会を共有できた参加者の皆様にも大変感謝致しております。

どこまで飛んでゆくのか。ずっとずっと飛んでいってほしいと願わずにいられない素晴らしい一日でした。



森本奈央子・将弘(8歳)

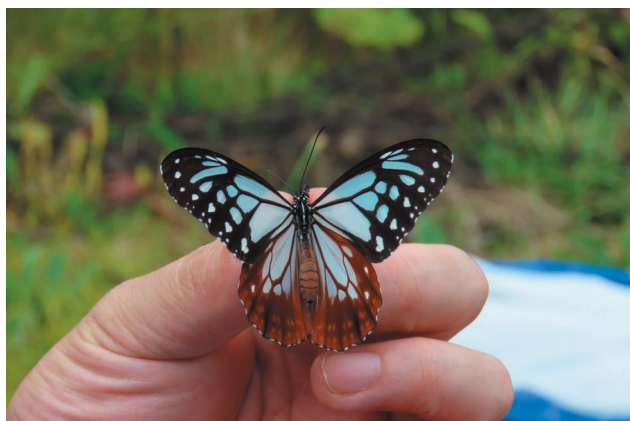
普段見られない高山の花々に囲まれ、それだけでも幸せな時間でした。

御嶽の雄大な自然の中、優雅に飛ぶアサギマダラに、必死に捕まえようとする人間。

大人の本気の虫取りは初めてだったので、俯瞰してちょっと面白くもありました。そしてまんまと翌日、筋肉痛になりました。

普段はTVや図鑑などで見る生き物の情報ですが、こうやって真剣に調べ、向き合い、発信される方々の上で、知り得ているのだと、痛感した時間でもありました。

改めて、豊かな自然がまだ残る飛驒に生まれ、こうした大切な活動をされている方々に巡り合わせていただいた事に感謝です。親子ともども、机上の空論でなく、活動にできるだけ参加して、生の体験で生の声を伝えられるようになっていきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。



飛驒の峠【その 21】

木下喜代男

伊佐（いさ）峠—江戸期に口留番所があった美濃国境の峠

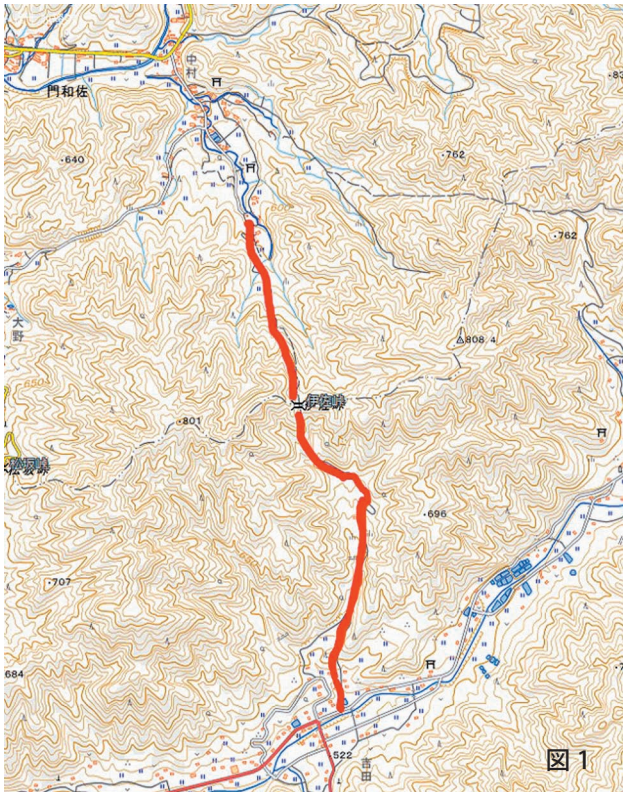


図 1

今まで北飛驒の消えゆく峠を歩いてきたが、たまには南飛驒に目を転じてみよう。

下呂市南部には、東山道飛驒支路の峠のほか、美濃との国境にいくつかの峠があった。そのうち主要な峠は舞台峠と伊佐峠。それぞれの麓の御厩野と門和佐に江戸期関所＝口留番所が置かれ、これは明治 4 年まで存続していた。

現在舞台峠には国道 257 号が通り、依然主要街道の使命を担っている。一方の伊佐峠は車道にならず、今では通る人も無く埋

もれつつあるが、国土地理院の地形図にはまだ歩道を示す点線が残っている。下呂市門和佐の中村集落から、白川町佐見の吉田集落へ越す峠だ（図 1）。

『飛州志』に「和佐峠下原郷和佐村ニアリ」、『飛驒國中案内』には「門和佐口御番所より吉田村の十王堂迄二十四町あり、此間國境は峠なり、字【いさとうげ】といふ」とあり、『斐太後風土記』には「門和佐嶺」とある。

〈探索記・聞き取り〉

令和 4 年 9 月 30 日

地図の上でさえ物寂びた感じがするこの古い道を歩いてみたくなって、初秋の日に向かった。下呂温泉の市街地を過ぎたところで国道 41 号と別れ、中津川市へむかう国道 257 号へ入る。少し走って右折し、県道下呂白川線（飛美里山ふるさと街道）を南下すると、笹峠を越えて中村集落に出る。

集落の中ほどに県道を左折する道があるが、この角が口留番所を務めておられた今井家。最近まで「大野屋」という雑貨屋をやっておられた。右折してすぐ左には、白山神社の前に国指定重要有形民俗文化財の芝居小屋「白雲座」（写真 1）がある。

「白雲座」への道に入らず集落内をどんどん南へ進むと、こんどは左下に薬師三尊が祀ってある「蚕飼薬師」がある。『飛驒國中案内』には、この薬師堂に橋弁慶の絵馬と三十六歌仙があり、この 2 品は三木六蔵という三木久庵の一族による自筆だと書いてある。

さらに進むと林道になり、前方に峠らしき鞍部が見える（写真 2）。動物よけの柵を開けて入り、少し登ると林道はすぐ終わり、峠の入口になる。よく踏まれた道が上部へと延びている。

はじめは昔水田だったと思われる石積の段が両側に続くが、すぐ植林帯に入る。幹線街道だったので広いしっかりした道が続



写真 1



写真 2

く（写真 3）。このあたりは雪が少ないので小笹が生えているだけで、北飛驒のようなひどいやぶこぎはない。

やがて尾根となり、すこしジグザグを登ると、あとはゆるやかなほぼ直線の登りが続く（写真 4）。

全線倒木や崩壊箇所もなく、ハイキングコースとして使える道だ。むこうに V 字状の地形が見えだすと、すぐに峠へ出た。

左側に石仏があり、頭部が炎髪なので馬頭観音様であることがわかった（写真 5・6）。拝礼をする。観音菩薩のうちの一つが馬頭観音。天馬のごとく駆け回って人々のあらゆる煩惱を食い尽くす。その奮闘ぶりは馬が草をむさぼり食うのに似ているので、皆頭に馬の頭を載せておられる。また日本では馬が重要な交通手段だったので、鎌倉時代以降に交通安全の守護神としての独自の信仰が生まれ、特に地方の農村地帯の街道にその石像が多く立てられた。この峠におられるのもそうだ。



写真 3



写真 4

広い地形の峠には、腰をかけて休むための石がいくつか置いてあった（写真 7）。ここを通過する人々は、観音様に旅の無事をお願いしたあと一休みしたのであろう。

国境から先へも広い道がついていた（写真 8）。どんどん下ってみると、吉田集落からの林道終点へ出た。往路を戻って駐車場所まで弁当を食べ、中村集落へ下る。

集落最奥の家には 60 歳代の奥さんがおられ、「自分は峠を歩いたことはないが、最近まで毎日吉田から峠道を往復していた男性



写真 5



写真 6



がおられた。どこかへ通勤しておられたの
 だろうか」という話をされた。そして峠の
 話は、集落中心部に住んでおられる元教師
 のIさんに聞くといい、と助言をいただいた。

そのIさん(男性・当時90歳)を訪問。しっ
 かりしたお方で、縁側で次のような話をし
 ていただいた。

「峠の名は、あのあたりの小字が伊佐なの
 でつけられた」

「この集落にまんじゅう屋があり、いつも
 峠を越えて佐見へ売りに行っていたな。こ
 れは戦後しばらくまで続いていた」

「家の前が先年まで大野屋という雑貨屋を
 やっていた今井家で、この店はほしいもの
 をなんでも取り寄せてくれるので、地域の
 人はデパートと呼んでおった。美濃側の吉
 田や有本集落の人が峠を越えて買い物にき
 たよ」

「この今井家が昔の口留番所で、明治維新
 の時飛騨へ入った鎮撫使竹沢寛三郎の高札



が残っておったが、今は隣家で保管されて
 いる」

「ここ中村と、佐見の吉田、有本とは親戚
 関係が多い」

「佐見からは伊佐峠の他に有本集落へ通じ
 る峠がある。子供の頃に有本から歩いて中
 村へ嫁入りがあり、菓子をもらえるので峠
 の下まで行ったことがあるな」

あと吉田側の話をきこうと、県道の松阪
 峠を越え、白川町の佐見へ下る。

吉田では峠のことを知っている方になか
 なか会えなかったが、ようやくIさん(男性・
 当時81歳)から、子供の頃皆で峠を越え、
 中村に住んでおられた小学校の恩師=こと
 子先生に何回か会いに行ったことをなつか
 しげに話していただいた。

この吉田から金山までの行程について地
 誌『飛騨山川』には「伊佐峠を上佐見の内
 吉田へ越し、佐見川に沿うて下佐見の内田
 島にて飛騨川を渡り、金山町の内井尻へ達
 するなり」とある。

飛騨高山

アクションデイズ 2025

大八防災& SDGs フェア

11月2日(日)(10時~14時)

会場: エブリ東山店

5月のライチョウ展で展示したサ
 クラソウ自生地関連のパネルを再
 展示します。東海地方唯一の自生
 地の実態を広く市民に知ってもら
 い、保護活動に繋がります。あわせて、
 署名活動も展開していく予定です。

今後のスケジュール

☆秋の里山こみちハイク(城山～東山寺院群周辺)『高忠の石造物をさがせ!』

10月26日(日)(小雨決行) 集合時間: 午前9時

集合場所: 城山公園二の丸駐車場

持ち物: お弁当、飲み物、雨具、メモ用紙、筆記具、その他

服装等: 軽快な服と靴、帽子

高原忠次郎作の石造物を訪ねて歩きます。忠次郎は明治25年生まれ、吹屋町に住み、石工の請負業をしていました。狛犬、灯籠、石像、石碑など29件の作品がわかっています。

☆自然談話室 『乗鞍岳の登山地図、いま昔』

古い登山案内図と、今の「山と高原地図」(エリアマップ)を比較して乗鞍岳にまつわる今昔などのお話をさせていただきます。講師の二村さんは乗鞍エリアの地図の作製に関わっています。

講師: 二村幸孝さん(飛騨山岳会会長)

会場: 市民文化会館 2-5

日時: 11月6日(木) 午後7時～

※問い合わせ先: 松崎 (090-4214-5208、hrv2898@gmail.com)

★ギフチョウの生息地の下草刈り

集合日時: 10月18日(土) 10:00～15:00

集合場所: 高山市清見町池本、西正寺

申し込み期限: 10月10日

★チャマダラセセリ生息地の下草刈り

集合日時: 11月2日(日) 10:00～15:00

集合場所: 高山市高根町日和田の耕作地、その後高根町留之原へ移動

申し込み期限: 10月23日

・傷害保険を掛けるため、住所・氏名・生年月日が必要になります。参加いただける方は、各期限日までに鈴木利文さんにご連絡ください。

・連絡先: 鈴木利文さん (Mail: shunkei15yoshikata@blue.palala.or.jp、電話: 0577-33-1568)

・持ち物: 昼食・飲み物・タオル・着替え・防寒着(朝は寒い)・軍手・帽子・雨具等

・鎌やレーキなどの道具は用意しますが、使い慣れた道具がある方はご持参ください。

■ 会員を募集しています! 年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円

あなたの知人、友人に入会をおすすめください

・郵便振替 00800-8-129365 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 99 第号(秋号) 2025 年 10 月 1 日 発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋

TEL: 0577-32-7206・FAX: 0577-32-7207

下記 URL のページからくらがね通信のバックナンバーが閲覧できます。

★ <http://iidalaw.net/kuragane.html>

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者: 松崎 茂

E-mail: ioauregihserimus@hidatakayama.ne.jp TEL: 0577-34-4703

表紙写真提供: 小池 潜 印刷: 山都印刷